

筑波大学附属図書館 年報 2008 年度

08

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2008

目次

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 筑波大学の電子資料整備
4	3 フォーカス (平成20年度の特徴的な活動・事業) 1) 耐震改修工事 2) つくばリポジトリ 貴重な研究成果を世界へ、未来へ 3) 図書館プロモーションの取り組み「週5図書館生活、どうですか？」 4) 総合科目「知の探検法」 5) ERMS 実証実験
11	4 資料紹介 購入資料紹介：文選60巻
12	5 職員の活動 1) 海外出張 ・徳田聖子 British Library Center for Conservation ワークショップ／北米 ERMS 調査 ・金藤伴成 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 への参加とカナダ4機関の訪問 2) 学外研修／シンポジウム等における発表・講師、論文発表等
16	6 トピックス 1) サービス・活動 2) 見学・来訪者 3) オリエンテーション・講習会 4) 研修・シンポジウム 5) 会議 6) その他
18	7 メディアにみる附属図書館 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事
19	8 所蔵・公開資料の記録 翻刻・影印・放映等許可リスト
20	9 附属図書館ボランティアの活動
21	10 組織図・歴代館長
22	11 統 計

館長挨拶

中央図書館 エントランス



筑波大学附属図書館長

植松 貞夫

存在感を高める

創刊しました「筑波大学附属図書館年報2008」をお届けします。

附属図書館では刊行物を含む広報についてその基本から見直しを行い、媒体、デザイン、内容表現を一新しました。本年報は、年度における附属図書館の諸活動を総合的に報告すると共に、貴重図書の紹介などを掲載し資料的価値をもたせることを目的としています。

大学図書館は、従来から大学における学習・教育・研究を支援する中核的機構と位置づけられてきました。法人化以降は、社会貢献の一翼を担う組織、活動成果に関する情報発信の窓口としての役割も求められています。筑波大学附属図書館は昭和48年の創設以来、全ての図書館の一元的な運営、全学資料の統合的管理、全面開架方式、平成10年の国立大学初となる電子図書館の稼働、市民ボランティアの受け入れなど、我が国大学図書館の先導役であり続けてきました。この伝統の上に、平成20年度は、新しい時代の大学において「存在感を高める」をキーコンセプトに、所蔵資料の充実、利用環境の改善、情報発信力の強化を目的とした施策を展開しました。

具体的には、まず学習・教育支援機能では、シラバス掲載図書の網羅的収集など資料の充実強化に努めるとともに、「場としての図書館」整備に着手したところです。大学図書館は何よりも学生利用者に来館してもらうことが始まりです。広報見直しの一環として平成19年から着手した利用案内ムービー『週5図書館生活、どうですか?』は、企画・制作に学生の参加を得て利用者の視点で構成した内容と、ホームページで常時公開しそこから利用者のレベルに応じた利用案内へと導く点が評価され、平成21年度の国立大学図書館協会賞が与えられました。

研究支援機能は、電子ジャーナルに代表される学術情報流通の電子化により、いわゆる非来館型サービスにシフトしてきました。電子ジャーナルの整備には高額な予算措置を必要とします。筑波大学では、教育研究評議会において平成21年より4年間、基幹

と呼ぶ主要な電子ジャーナル・データベースの購入にかかる全額を大学全体の経費で賄うことを決定いただき、安定的提供が確保されました。しかし同時に、伝統的な紙媒体による機能強化も重要な課題と認識し、人文社会系大型コレクションを始めとする研究図書の体系的な蔵書構築に取り組む所存です。

学内の研究・教育活動の成果を公開する「つくばリポジトリ」は、平成17年以来国立情報学研究所の「学術機関リポジトリ構築支援事業」による支援を受け、2万点以上を収録するに至ると共に、「学協会著作権ポリシーデータベース」の構築などその中核図書館として活動を展開し、さらに筑波研究学園都市内研究機関の参加を視野に入れた「つくばサイエンスリポジトリ」構想へと発展してきています。

中央図書館は開館以来30年が経過した本館の全てを対象に平成20年7月から、耐震補強並びに老朽改修工事を3か年計画で進めています。これに当り、館長をトップとするプロジェクトチームを設けて、管理運営、利用者サービス、資料の充実並びにその長期にわたる良好な保存・継承などの観点から検討を行い、今後も大学図書館の先進例であり続けられるよう全体計画を策定しました。幸い、大学全体のご理解と支援をいただき、第1期の1階と中2階及び2階は平成21年4月にリニューアルオープンし、第2期の3階、4階の工事も予定通り進行しています。しかし、工事対象範囲の面積が広いこと、基本的なサービスを継続しながらの工事であるため、やむを得ず一部資料の提供停止やサービスの縮小など、利用者各位にご不便をおかけしている点についてはお詫び申し上げ、ご容赦賜りたく存じます。

附属図書館は、利用者の皆様により一層活用していただける魅力ある図書館・頼りにされる図書館を目指して努力を重ねております。皆様の忌憚ないご意見をお寄せくださるようお願い申し上げます。

筑波大学の電子資料整備

1. 冊子から電子ジャーナルへのシフト

ここ10年余りの間に学術情報流通の担い手として電子ジャーナルの普及が急速に進展しました。とくに理系分野においては、冊子から電子ジャーナルへのシフトが顕著で、多くの研究者にとって電子ジャーナルは研究活動にとって不可欠な媒体となっています。

電子ジャーナルは、従来、紙に印刷されていた学術情報を電子化し、インターネットを介してパソコンから利用できるようにしたものです。この電子ジャーナルの流通の特性により、利用者はこれまでにない大きな利便性を手に入れることができるようになりました。

まず、冊子の利用と違って図書館（あるいは冊子を配架してある場所）に出向かずに研究室で直接利用できるというようになりました。図書館に出向かずに利用できるということは、同時に、図書館の開館時間に左右されずにいつでも好きな時に利用できることを意味しますし、利用できる人数が（一部しかない場合は）一人である冊子と違って複数の利用者が同時にアクセス可能になりました。さらに、出版元で刊行されてから利用できるまでの時間も大幅に短縮されました。

このように電子ジャーナルの持つ利便性、共同利用性は研究活動に大きなメリットをもたらしましたが、図書館にとっては非来館型サービスの提供をどのように構築していくかを問われるものでした。

2. 電子ジャーナルの価格モデル

電子ジャーナルの多くは、当初は冊子購読に付随し無料で閲覧できましたが、次第に冊子購読に加えて追加料金を支払うことで電子ジャーナルの閲覧が可能という料金体系になっていきました。そして現在では、電子ジャーナルが主体となり冊子が必要な場合には通常の価格の大幅割引（DDP：Deeply Discounted Price）で購入できるという料金体系に変わってきています。

また、電子ジャーナルの価格モデルの特徴は、出版者が刊行する電子ジャーナルの全タイトル（あるいは大部分）やサブジェクト単位でパッケージ化して販売するというモデル（Big Deal）が主流になっています。

この価格モデルは、大学全体としての冊子購読価格に一定の追加料金を支払うことで、購読誌以外のタイトルも閲覧できるというもので、費用対効果の高いモデルです。ただ、パッケージの全タイトルへの閲覧の条件として購読規模を維持しなければなりません。

冊子の場合には、個々のタイトル毎に必要な性の有無や予算を勘案した上で購読を決定すればよかったのですが、電子ジャーナルのパッケージ契約の場合は、契約期間中は個々のタイトルの中止はできず予算の増減に関わりなく、毎年の一定割合の値上げを含めて購読金額を支払い続けなければなりません。

3. 大学全体としての財源確保

これまで雑誌の購読は、教員（あるいは専攻、研究科）がどのタイトルを購読するかを決めており、研究費の減少に伴い購読中止とするタイトルが増えてきました。冊子の場合と異なり電子ジャーナルは、購読タイトルを中止するとパッケージ契約の条件である購読規模の維持が不可能となり、パッケージの全タイトルへの閲覧ができなくなってしまいます。

電子ジャーナルのパッケージ契約は、これまで購読していなかった多くのタイトルの閲覧を可能にしましたが、一方で、従来のような個々の教員の研究費を前提としてタイトル毎に購読を判断するという方法では対応できなくなってきました。

大学として必要なパッケージを安定的に供給するためには、電子ジャーナルを教育研究活動の学術情報基盤として位置づけ、個々の教員の研究費を前提とした財源ではなく、大学全体としての財源確保の仕組みを構築する必要に迫られました。

4. 平成18～20年度の整備方針

このような状況を受け、平成17年度に全学的な電子ジャーナルの整備を検討するために、教育研究評議会の下に「電子的資料に関する検討委員会」が設置されました。

検討委員会が決定した主な整備方針は以下のようなものでした。

1. 電子ジャーナル及びデータベースの高い共用性、利便性から、附属図書館の責任のもとに、図書館資料の一部として整備する。
2. 「全学的な負担による電子的資料(基幹とする電子的資料)」は、平成18年度から拡充することとし、その具体的選定は附属図書館運営委員会の決定による。
3. 資料の保存性、利用の利便性などから、ある程度の雑誌については冊子体での購入を継続する。

この整備方針を実現するための財源については本部、研究科、附属図書館がそれぞれ次のような考え方に基き負担すること

になりました。

1. 本部は、これまで附属図書館に配分していた学長裁量経費に一定額を加えた額として、7,100万円を毎年度当初に附属図書館に配分する。
2. 研究科は、研究科配分経費の中から18,400万円を負担する。各研究科の負担割合は、研究科負担総額の8割については平成17年度の冊子購読実績、2割については電子ジャーナルの利用実績に基づいて算出する。
3. 附属図書館は、文部科学省から電子ジャーナルの導入のために措置されていた経費に冊子購入費を加えた3,000万円を負担する。
4. 為替変動分を含む経費の上昇分は、附属図書館が負担する。これにより、平成18年度から20年度については、電子ジャーナル、データベースをこれまでよりも拡充した上で、安定的に供給する仕組みを構築することができました。

5. 平成21年度～24年度

基幹となった6出版者のパッケージの電子ジャーナルのダウンロード数は、出版者や年度により増加の割合に差はありますが、着実に増え続けています。また、その内訳を見ると、もともと筑波大学が購読していた雑誌（購読誌）とパッケージ契約によって閲覧できるようになった雑誌（非購読誌）のダウンロードの割合は、基幹となった6出版者の平均で購読誌が51%、非購読誌が49%となっています。このことから、パッケージ契約による閲覧可能なタイトルの増加は、本学の学術情報環境を大きく向上させたと言えます。

ただ、本学と同じ規模の他の国立大学と比較すると閲覧可能な電子ジャーナルの数は必ずしも十分とはいえない状況です。とくに人文社会系については、本学の研究領域の多様性からするとまだ未整備であるといえました。

一方、財源については価格上昇分を附属図書館が負担することになったため、研究用図書や教育用図書の購入に影響が出ました。さらに、各研究科からも、冊子購読実績に基づく負担割合について見直しの声があがるようになりました。

本学における電子ジャーナルの利用状況や整備状況を前提として、平成21年度以降の整備をどのように考えていくべきかを検討するために、教育研究評議会の下に「電子ジャーナルの整備に関するワーキング・グループ」が平成20年度に設置されました。

ワーキング・グループでは、平成18年度から20年度までの状況を分析し、課題点を整理した上で次のような結論に達しました。

1. 本学で整備する電子的資料は、本学の研究領域の広がり配に配慮し、平成18年度から平成20年度までの3年間基幹とした電子的資料に加えて、Nature姉妹誌、JSTORのThe Arts & Sciences Collection、EBSCOhostのBusiness 関係資料を新たに拡充する。
2. 電子ジャーナル等の大学の教育研究の学術情報基盤という公共財的性格から、大学全体として安定的に整備する。
3. 大学全体としての整備の対象は、電子ジャーナル等の高い共同利用性、アクセシビリティから電子版のみとし、冊子体は必要とする研究科等の責任で購入する。
4. 平成22年度から24年度までの値上がり分も含め、基幹となる電子ジャーナル、データベースの購入財源は大学の共通経費をあてる。

これにより、電子ジャーナルを本学の学術情報基盤として位置づけ大学全体の経費で整備していくという方針が明確になりました。また、これまで研究領域の点で不均衡のあった部分を多少なりとも是正することができました。

6. 今後の課題

平成21年度以降の電子的資料の整備については全学的に安定的に供給していくことが決まりましたが、電子ジャーナルのパッケージの価格モデルが価格上昇を前提としたものである限り、現状の財政状況からすればいずれ限界になることは明らかです。

今後電子ジャーナルの利用を安定的に確保していくためには、必要とするタイトルを柔軟に選択できる持続可能な価格モデルの構築を目指して、出版者側と協議をすることが不可欠です。

また、これまで自然科学系の雑誌が中心だった電子的資料ですが、人文社会科学系ではマイクロ化されていた原資料コレクションのオンライン化が進められてきています。これらのコレクションは、含まれる資料が膨大でしかも関連する領域が多様であるという特徴があります。これらの電子的資料の整備についても検討する必要があります。

さらに図書を電子化してネットワークで閲覧できる電子ブックも実験的にすでに購入しています。学習用図書として利用できるタイトルが増加すれば、同時に複数で利用できるというメリットを考慮すれば、整備対象として十分検討に値するものと思われます。

（情報管理課長 関川 雅彦）

1. 耐震改修工事

1. 工事の目的

昭和54年竣工の中央図書館本館の耐震強度 (Is 値0.31) を向上させるため、柱の鋼板巻、ブレースの設置を行なうとともに、施設設備の老朽化対応として、天井・床・壁、エレベータ、空調、照明などの諸設備を一新、フロアの模様替えを行い、館内利用環境の整備を図りました。開館しながら工事を可能にするため、3期に分けてフロアごとに施工する計画としました。

	工事対象フロア	面 積
第1期	1階、中2階、2階	7,620㎡
第2期	3階、4階、新館2階	4,680㎡
第3期	5階	2,540㎡

2. 経緯

- 19年6月 平成20年度施設整備費として
予算要求 (3年次計画の1年次)
- 20年1月 平成19年度補正予算により
第1期工事が措置される
- 1月～2月 館内検討の結果、全工事期間にわたり
3～5階配架図書の利用を可能とする
ため、1～中2階の東京教育大旧蔵書
等を箱詰めし、2～3年間利用停止と
するのめやむを得ないとした
- 7月 第1期工事の着工
- 10月 平成20年度補正予算により第2期工
事が措置される
- 21年3月 第1期工事の竣工、第2期工事の着工 (予定)

3. 検討体制

職員による「中央図書館耐震改修WG」を立上げ、改修プランの検討を行ない、適宜施設部との打合せを実施しました。またWGでは図書・書架・什器の移転に関して、計画策定、仕様書作成、及び必要な準備作業にあたりました。

4. 改修プラン

(1) コモンスペースとしての2階

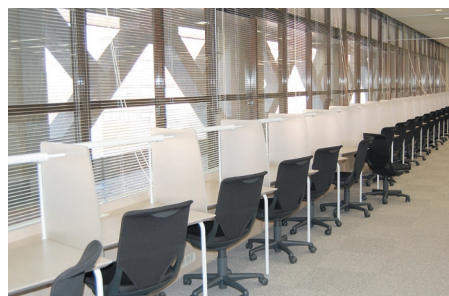
改修後の本館2階の性格を、学生が気兼ねなく集まれる場所、静寂を求めないフリーでオープンなスペースと位置付け、従来のフロアプランを全面的に見直しました。セミナー室、コミュニケーションルームを設置するとともに、閲覧室を全面フリーアクセス化して、PC (全学計算機システム端末) を集中配置しました。また、できるだけ書架を置かないため、このフロアには一部の参考図書と視聴覚資料、本学関係資料等を配架しました。新着雑誌については他フロアに配架すべきとの議論があったものの、改修前と同様に本館2階に残すこととしました。



本館2階

(2) 静寂空間としての3～5階

耐震強度向上のため、書架スペースと閲覧スペースに多数のブレースが設置されるなかで、図書収容能力と閲覧座席数をどこまで維持できるかが問題でした。対面朗読室、会議スペースを新館2階へ移転、セミナー室の原則2階への集中化、研究個室数の削減、書架と閲覧席のゾーン変更、キャレルデスク (個人用閲覧席) の新設等により、かなりの程度、書架棚数と座席数を確保することができる見込みです。



キャレルデスク

(3) 書庫スペースとしての1階・中2階

従来からの積層書架を維持しつつ、分散配置していた閲覧キャレールはセキュリティ的に不安が残るため廃止し、閲覧席を旧目録コーナーに集約した結果、1階・中2階は図書資料を配架する書庫としての性格が強化されました。製本済未製本で分散していた紀要は、改修完了後は1階に集約することになりました。



本館中2階

(4) 事務室の統合

本館2階と新館1・2階に分散していた事務室を原則として本館2階に集約し、職員間の円滑なコミュニケーションと業務遂行の機動力向上を可能とする執務環境を整備することができました。



レファレンス・デスク

5. 図書の移転場所の確保

開館しながらの改修工事を可能にするためには、工事の進行に応じて図書の配架場所を館内で移動しながら、工事と利用を両立させる必要があります。しかし、既に満杯状態の蔵書を抱えている状況では、まとまった分量の図書を館外に保管せざるを得ませんでした。工事期間中、館外保管することにした東京教育大旧蔵書及び雑誌・紀要のバックナンバー（最終的に約

30万冊）の保管場所の選定は、紆余曲折をたどりました。

民間業者のデリバリー付き倉庫への保管が理想的でしたが、工期が3年で完了する保証のない状況では、コスト的に現実的な選択肢にはなりませんでした。学内では、春日地区体育館、幹部用職員宿舍（竹園）、独身用職員宿舍（吾妻）も候補として検討しましたが、床荷重、借用期間、保存環境等に問題があり断念せざるを得ませんでした。近隣の研究機関、県内の大学図書館等、公的機関にも打診しましたが、借用期間が長期にわたること、保管図書が大量であることを理由に、結果は芳しいものではありませんでした。最終的には、高エネルギー加速器研究機構の紹介により、東海村にある茨城県所有の倉庫（約900 m²）を当面借用することができ、ここに図書を箱詰めして保管しました。

6. 教員・学生の反響と救済措置

当初、東京教育大旧蔵書及び雑誌・紀要のバックナンバー約50万冊を館外に保管し2～3年間利用を停止するため、教員・専攻に対する長期貸出措置を広報したところ、特に人文社会科学系の教員、院生から激しい苦情が図書館に殺到しました。その後、人文社会科学研究科の教員等との度重なる対話と協議を通じて、中央図書館新館、体芸図書館、図情図書館への移転、教員・専攻に対する長期貸出に加えて、A書庫（保存書庫）を最大限活用することにし、教員・学生が選択した図書をA書庫に配架することで、利用可能資料の拡大を図りました。最終的に館外保管のため利用できなくなった図書資料（約30万冊）については、学生が他大学から取り寄せ・複写を希望した場合は、料金を図書館が負担することにし、教育・学習への影響を緩和する措置をとりました。

7. 工事中のサービス体制

工事期間中は、利用者の安全性を確保しつつ、利用者サービスをできるだけ維持することを目標としました。仮設カウンターの設置等により原則開館を貫き、工事に伴う臨時休館は2日（平日1日、休日1日）のみにとどめました。また、A書庫に利用者を入庫させるため、鍵の更新、複写機の新設など、利用環境の整備も併せて行いました。

（東京大学 工学系・情報理工学系等情報図書グループ長／
前情報サービス課長 高橋 努）

2. つくばリポジトリ — 貴重な研究成果を世界へ、未来へ —

1. つくばリポジトリの概要

筑波大学機関リポジトリ「つくばリポジトリ」は、筑波大学で生み出された研究・教育成果（学位論文、紀要、学術雑誌掲載論文等）を蓄積・発信する、インターネット上に設ける学内共有の学術情報提供システムです。

機関リポジトリは、学術雑誌の価格高騰を契機として、研究成果の流通を学術コミュニティの手に取り戻そうとする新しい学術情報流通モデル「オープンアクセス」から生まれました。国内では国立大学を中心に110機関以上、海外では1,400機関以上で構築されています。

リポジトリシステムの最大の魅力は、登録された研究・教育成果はGoogleやYahoo!など様々な検索エンジンから検索が可能である、ということです。附属図書館では研究・教育成果を、責任を持って収集・保管するとともに距離と時間を超えて世界へ発信することを図書館の新たな使命であるとして、日々活動を続けています。

2. 研究・教育成果の収集

つくばリポジトリの活動の第一歩は、研究・教育成果（コンテンツ）を集めることから始まります。平成20年度は、学位論文・紀要・学術雑誌掲載論文を「重点コンテンツ」と位置付け、収集活動を行いました。

2.1 学位論文

各支援室の教務担当の協力を得て、各研究科の学位取得見込者に、学位論文のつくばリポジトリへの登録を呼びかけるチラシを配付したほか、平成20年度学位取得者全員に、学位論文登録用CD-Rを配付しました。このCD-Rのジャケットとレーベルは附属図書館職員のデザインで、ジャケットには、つくばリポジトリの魅力が一目でわかる4コマ漫画も印刷されており、好評を得ました（図1参照）。

また、7月には人間総合科学研究科芸術専攻の教員及び学生を対象とした説明会を実施し、50名を超える参加者を得ました。

これらの活動を通じて、学位論文の登録・公開にあたっては、論文の内容に係る特許を申請中である場合や、論文の一部または全てを学術雑誌論文や図書として出版の予定がある場合に配慮し、公開時期を指定できること、また、個人情報保護の



登場しているのは附属図書館のキャラクター、「がまじゃんばー」と「ちゅーりっぷさん」
図1 学位論文登録用CD-Rジャケットの人気の4コマ漫画

ため、論文内で取り上げた症例に関する記述の一部をマスキングできることを説明し、公開への理解と協力を求めました。その結果、平成19年度以前の学位取得者のものも含め、新たに426件もの学位論文全文を登録・公開することができました。

2.2 紀要論文

ある教員の方から「図書館が紀要の電子化・公開をしていることを知らなかった。教員としても非常に助かるので、もっとアピールすべきである」とのご意見をいただいたことを踏まえ、紀要の電子ジャーナル化に関するチラシを作成し教員・研究員等（1,710名）に配付したほか、登録に際しての詳細なFAQや投稿規程の規定例、登録関係書類などをWeb上で公開し、つくばリポジトリへの登録を呼びかけました。

この結果、新たに4誌について登録の承諾を得て、平成19年度までに承諾を得ているものと合わせ73誌900件の論文登録を行うことができました。さらに、教員からの要望に基づき、登録されている紀要論文を、つくばリポジトリ上で電子ジャーナルに準じた形式で表示させる方法を開発しました。現在、つくばリポジトリに登録されている全ての紀要について、順次表示ページの作成を進めています。

2.3 学術雑誌掲載論文

平成19年度より開始した、直近1週間にWeb of Scienceに登録された本学教員の執筆した論文について調査し教員に提供依頼を行うといった方法に加え、さらに様々なデータベースを調査しメールによる提供依頼639件を行い、270件について許諾を得て登録を行いました。また、コンテンツ提供者に対するダウンロード数のメール配信を現在毎月約350名の教員に対して行っており、「国内外から多くのアクセスがあること

に驚いた」「今後もコンテンツを提供したい」といったコメントが寄せられました。教員からの自発的なコンテンツ提供も49件に上りました。

この結果、平成20年度は新たに527件の学術雑誌掲載論文を登録・公開することができました。

3. 研究成果登録支援システム（仮称）の開発

コンテンツの安定的・持続的な収集のためには、研究活動におけるプロセスとニーズを知らなければなりません。収集活動を通じて教員の方々と話すうちに、多忙な研究者にとっては自身の業績を管理することがかなりの負担となっていることに気づきました。

そこで、平成19年度から、収集活動と並行して「研究成果登録支援システム（仮称）」（以下「支援システム」）の開発を開始しました（図2参照）。支援システムの構築により次のような成果が期待されます。

- (1) 研究者の業績の登録・管理に係る負担を軽減するとともに、登録した業績データ及び本文データの多彩な活用を可能にすることによって、研究者の業績登録・管理に付加価値を生み出し、つくばリポジトリへのコンテンツの提供を促進する。
- (2) メール等で行ってきた図書館職員と教員との煩雑なやり取りを、システム上で行うことにより、正確かつ迅速に行うことができ、教員の負担と図書館職員の業務量の軽減につながる。

平成20年度までに、システムの基本的機能の開発はほぼ完了しました。平成21年度は本格的な運用を目標として、主として①登録されたメタデータ及び本文データをつくばリポジトリに転送する機能、②Web of Scienceや医学中央雑誌等のデータベースのメタデータをリンクリゾルバ（SFX）経由で流用し

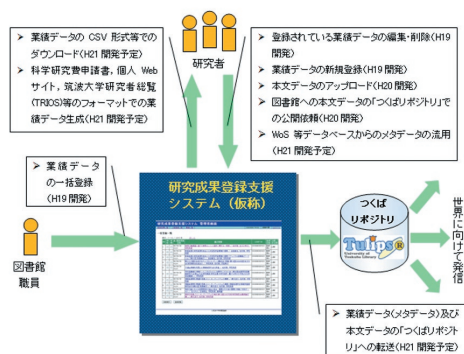


図2 支援システムの機能概要及び開発状況

て登録する機能、③登録されたメタデータを科学研究費申請用・個人Webサイト用等に整形して出力する機能等を追加して、研究者にとってのさらなるユーザビリティ向上を目指したいと考えています。

4. 数字で振り返るつくばリポジトリの1年

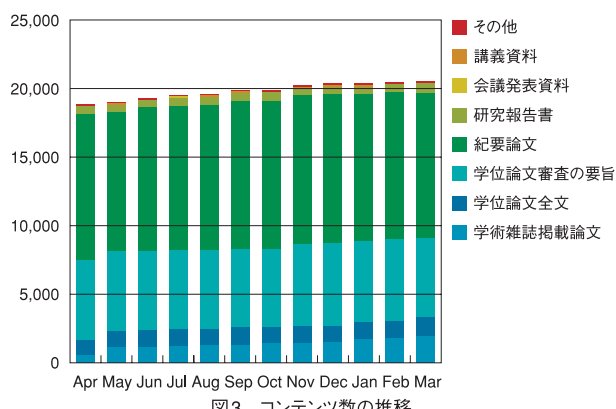


図3 コンテンツ数の推移

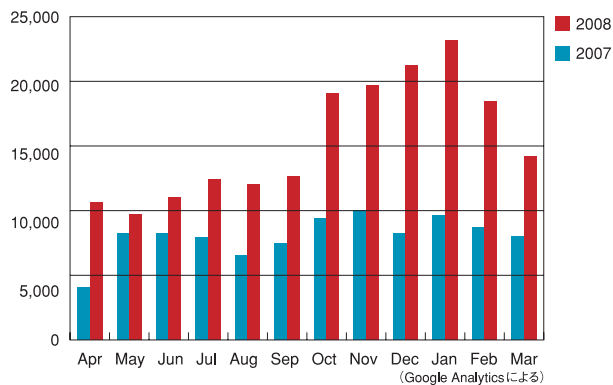


図4 アクセス数の推移

最後に、この1年間をコンテンツ数とアクセス数という2つの統計から振り返ってみたいと思います。コンテンツ数は平成20年11月には20,000件に達し、その後も順調に増加していること（図3参照）、またアクセス数も平成19年度に比べ格段に伸びていることがわかります（図4参照）。年間の総アクセス数は185,177件で、世界139か国にも及び国や地域からのアクセスであり、しかも実に70%以上が検索エンジン経由のものでした。まさに、リポジトリシステムの醍醐味である「研究・教育成果の視認性の向上」を裏づける結果と言えるでしょう。

平成21年度も是非、つくばリポジトリの活動にご注目ください。

（リポジトリ担当専門職員 斎藤 未夏）

図書館プロモーションの取り組み

3. 「週5図書館生活、どうですか?」

1. 「図書館案内」から「図書館プロモーション」に

平成20年4月、『週5図書館生活、どうですか? The Movie』と題したプロモーションビデオと、そのプラットフォームとして制作したプロモーションサイトをWebで公開しました。こ



れは視聴する学生、とりわけ「新入生」が、自分のこととして興味や親近感をもてる内容であり、かつ学生が必要な情報を提供することを目指し制作したものです。

従来の「図書館案内ビデオ」は、あくまでも図書館が主役で、利用方法をわかりやすく説明するナレーションが淡々と流れるものでした。その主役を「学生」に置き換え、図書館利用上の規則や約束事の説明は極力抑えながら、メリハリとスピード感のある映像で学生の日常生活における図書館利用を提案する「プロモーションビデオ」としました。また、留学生や聴覚に障害のある学生に配慮し、字幕版 (英語・中国語・韓国語・日本語) も用意しました。

2. プロモーションサイトの公開

プロモーションサイトでは、ビデオと合わせて提案型利用ガイドや写真集など様々なコンテンツを提供しています (図1)。「わかりやすく・楽しく」を

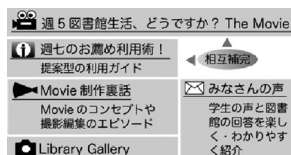


図1 コンテンツ構成

コンセプトに、先輩や友人からの情報であるかのような印象を与えるように工夫しました。また、当館キャラクター「がまじゃんぱー」「ちゅーりつぷさん」を随所に登場させることで、親しみやすい雰囲気をもたせています。

学生を対象に実施したWebアンケート (平成20年6月～9月) では74名からの回答がありました。図書館をよく利用している学生からの回答が多く、ビデオの感想やWebサイト上の利用案内に関する有益な意見を、Webページの改善につなげることができました。

また集計結果は同サイトで公開し、その内容や学生の意見に対する図書館からのコメント・フィードバックを行いました。その際、アンケート結果で認知度の低かった図書館サービスについて、利用案内ページへリンクする等の情報を付加したところ、再度学生からの好意的なコメントが届き、双方向コミュニケーションチャンネルとしての当サイトの可能性を探ることができました (図2、3)。

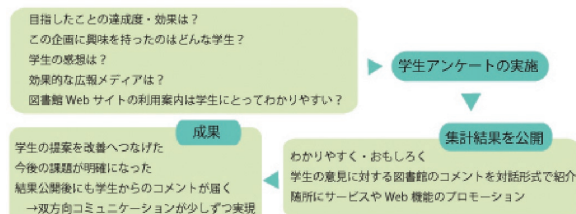


図2 学生アンケートの実施

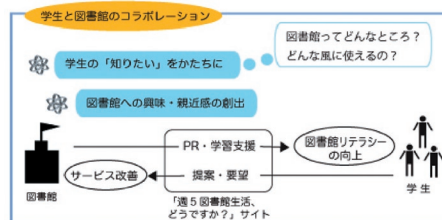


図3 学生と図書館のコミュニケーション

3. 今後の課題

このように「初年次学生・新入生」をプロモーションのメインターゲットとして活動を展開してきましたが、図書館への興味を持続させ、学習における図書館活用へとつなげるためには、そのターゲットを「学生全体」に拡大する必要があります。

平成18～20年度は、図書館案内ビデオのあり方を「学生の視点」から捉え直し、学生を交えて企画・制作を行いました。また、ビデオの提供を学生への積極的な広報活動の一環と考え、プロモーションサイトを設置し、提案型の利用ガイドとビデオをリンクさせることで内容の相互補完を図り、利用者の図書館リテラシーのレベルに応じて随時利用方法を学べるようにしました。

今後はより一層のコンテンツの充実、ユーザビリティの改善、学生とのコミュニケーションの強化を課題として取り組み、何度も訪れたいと思うサイト作りを目指すとともに、図書館と学生が良い関係を築き、維持していくためのプロモーションサイトとして機能させていきたいと考えています。

- 1 週5図書館生活、どうですか? (オンライン).
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/w5lib/5days.html>
(accessed 2009.05.19)
- 2 筑波大学附属図書館利用案内ビデオの変遷
S.56・「オリエンテーション用ビデオ」(第1～3版)
S.63・「見学者用図書館案内ビデオ」(第1～3版)
H.4・H.15「図書館案内ビデオ」(第4・7版)として一本化
H.18「図書館案内ビデオ企画ワーキンググループ」でコンセプト策定
H.19「プロモーションビデオ制作ワーキンググループ」で制作
H.20 プロモーションビデオおよびWebサイト公開
- 3 この取り組みは、平成21年度国立大学図書館協会賞を受賞しました。

(企画渉外係 村尾 真由子)

4. 総合科目「知の探検法」

1. はじめに

高度情報化社会を迎えた今日では、大学において学習・研究を進めて行くうえで多様な情報資源にアクセスして必要な情報を的確に検索・選択・利用することが大変重要になってきています。

図書館情報リテラシーの授業は、学術情報を中心としてその適切な探し方や利用法、データベースとその利用等各種情報メディアの利用法、さらに得られた情報を用いて論文・レポートを簡潔・明瞭にまとめる方法等について学ぶことを目的に開設されました。

2. 筑波大学附属図書館での授業における図書館情報リテラシー教育の歴史

a. 第1期…平成13年度～平成17年度

基礎科目、情報処理の上級科目として「情報の探索と活用」を1コマ10回で行いました。

図書館職員はその中の1コマ「附属図書館とインターネット情報資源」の講義を担当しました。

b. 第2期…平成19年度～

研究開発室のプロジェクトの一環として、総合科目で授業を実施しました。図書館職員は2コマ10回の授業のうち、図書館Webページを利用する4回分を担当しました。

①平成19年度

プロジェクト名：図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施

授 業 名：図書館情報リテラシー

②平成20年度

プロジェクト名：情報リテラシー教育における図書館の役割と実証的展開

授 業 名：知の探検法

3. 平成20年度の授業

名称：知の探検法

開設学群：情報学群 知識情報・図書館学類

責任者：宇陀則彦

曜時限：3学期月曜1,2限

教室：1C206

定員：40名

担当者：

宇陀則彦（図書館情報メディア研究科）

辻 慶太（図書館情報メディア研究科）

安島明美（情報サービス課レファレンス係）

守谷美佐子（情報サービス課レファレンス係）

浅野ゆう子（情報サービス課レファレンス係）

TA：木村雄二（図書館情報メディア研究科修士1年）

講義内容：

01	12/01	知の探検に出かける	宇陀
02	12/08	一般事項を調べる	宇陀
03	12/15	専門事項を調べる	辻
04	12/22	公的情報を調べる	辻
05	01/23	図書を探す	安島
06	01/26	雑誌を探す	守谷
07	02/02	論文を探す(1)*	浅野
08	02/09	レポートの書き方	宇陀
09	02/16	論文を探す(2)*	安島
10	02/23	課題発表	宇陀・辻

* (1) が日本語論文 (2) が外国語論文

授業方針：

- 1コマ目を講義、2コマ目を実習を基本とするが、内容により適宜変更可。
- 第1回目の授業時に課題を提示し、授業で得た知識・技術を元に課題に取り組み、第10回で課題発表を行う。
- 必要に応じ平成19年度に作成したテキストを使用する。

4. 授業を終えて

定員40名のところ最終的な受講者数は14名と少し寂しいものでした。演習科目のため授業時間数の割には取得単位数が少なく、月曜日の1・2限目、しかも3学期ということもあって、敬遠されてしまったのかも知れません。けれど、授業終了後のアンケート結果では「私にとってこの授業は総合的に満足できるものであった」との問いに「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせると100%となり、受講者の満足度はかなり高く、今後も図書館情報リテラシー教育を続けて行くことの意義を強く感じました。

21年度の授業では定員が倍増され80名となりましたので、少しでも多くの学生に情報収集・論文作成のスキルを身につけてもらえるよう、より多くの学生が受講してくれることを望みます。

（レファレンス係長 安島 明美）

5. ERMS実証実験

電子ジャーナル、データベース、e-bookなど、最近では紙媒体以外の電子的資料が増えてきました。長年紙媒体の資料をサービス、管理の対象としてきた図書館にとって、それら電子的資料の管理は現在課題の一つになっています。毎年変化する電子ジャーナルの価格や閲覧可能範囲、ILL（図書館間相互利用）のための利用条件、何らかのトラブルによる資料へのアクセス不可状態の把握など、電子的資料の管理は現物が存在する紙の資料よりも複雑で大変です。

そこで平成19年度と20年度の2年間、図書館では国立情報学研究所（NII）が立ち上げたERMS実証実験プロジェクトに参加しました。ERMSはElectronic Resources Management Systemの略で、日本語では「電子情報資源管理システム」などと訳される、電子的資料を管理するためのシステムです。ERMSは、海外では電子的資料の管理問題を解決するためにすでに導入が進められており、一定の成果をあげているところもあります。ただ、日本国内において導入事例は数えるほどで、普及しているとは言えない状況でした。いくつかの大学図書館とともにプロジェクトに参加し、増大する電子的資料の管理が効率よく行えるようなシステムの可能性について探っていくことになりました。

実験に参加するにあたり、NIIから実際に海外で流通しているERMSを使用させてもらい、電子的資料のデータを管理し、図書館のワークフローの検証、リンクリゾルバとの連携、既存の図書館業務に組み込む際の問題点解決方法などについて実験・検証していきました。

具体的には、平成19年度の実験では、ERMSによる電子情報資源の管理・運用の効率化の検証、ERMS導入の問題点の検証を目的としました。その目的のために、ERMSワークフローの検証、リンクリゾルバとの連動、利用統計情報の利用、図書館業務への導入・運用に向けての課題検討を行っていきました。とはいえ初めて触れるシステムだったので、まずは操作の習熟から始めるというのが実状でした。使用しているERMSで「何ができるのか、できないのか」を、実際に操作しながら見極めていく作業が続きました。

平成20年度の実験にはいくつかの大学が新規に参加し、それぞれの課題に取り組みました。筑波大学としては、図書館でERMSを正式に運用することになった場合、既存の組織体制では分担できない業務が多く発生するということが前年度の実験を通してわかってきていました。そこで平成20年度は、ERMS

を導入した場合の運営・組織上の問題点とその解決方法の考察を目的として実験に参加しました。流れとしては、一連の業務をERMSを使用して行い、前年度実験での課題が解決できるかどうか業務の流れの中で検証し、最終的にはERMS導入を想定した場合の組織プランを策定するところまでを計画し、実験を行いました。現在の図書館業務の洗い出し、ERMS導入時のワークフロー作成、メリット・デメリットの考察など、システム外の重要な点について検討できたのは収穫でした。

2年間の実験を通じての感想としては、まず海外で開発されたシステムのため、インターフェース、マニュアルなどの言語が基本的に全て英語であり、操作に慣れるまでが本当に大変だったということが挙げられます。2年間のシステム操作を通じてもなお不明な部分もたくさんありました。海外のシステムの場合は、その日本語化というのも非常に大きな課題だろうと思います。（もちろんわれわれの英語力も鍛えていかなければなりません。）

また、改めて業務体制を見直してみるきっかけにもなりました。今後、電子情報資源がさらに増加していくにつれて、ERMSを導入したり、それに合わせた業務体制を整える必要が必ず出てくると思いますが、その際の問題点などを前もって考察することができたと思います。

この実証実験は平成21年度より、ERDB（電子情報資源データベース）の設計検討、ERDBプロトタイプの実証計画へと、1段階フェーズが上がった形で継続され、筑波大学附属図書館としても引き続き参加する予定です。

平成19年度、20年度の実証実験報告書（PDF）は国立情報学研究所の下記URLよりご覧いただけます。

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/erms_test_h19.html (平成19年度)

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/erms_test_h20.html (平成20年度)

(雑誌受入係 中山 知士)

購入資料紹介

『文選 60巻』寛永2(1625)年刊

文選 60巻 (梁)蕭統撰；(唐)李善〔ほか〕註；(宋)陳仁子校補；
 寛永2〔1625〕；形態；31冊；別書名；増補六臣註文選
 〔中央図書館貴重書庫 921.4-Sh95 10008012166～〕

「文選」は、中国のみならず日本など周辺諸国にも影響を及ぼした中国の詩文選集です。この資料は『六臣註文選』の二大系統の一つで、本学既蔵の別系統本とあわせて利用できるようになりました。また、古活字版のため製版とは異なり活字で組まれた版本として独自の個性をもち、宝鈴文庫をはじめ5種の蔵印、墨朱青筆による傍点等の書入れもあることから、資料的価値も非常に高いものです。
 ※この資料は、附属図書館の平成20年度人文社コレクションとして決定し購入しました。平成21年度には電子化作業を行い、Webでも公開予定です。



5 職員の活動

1. 海外出張

徳田 聖子 TOKUDA Seiko

British Library Center for Conservation
ワークショップ／北米 ERMS 調査

1. 平成20年度海外出張報告

平成20年7月13日から20日まで英国へ、平成21年2月16日から22日まで北米へ出張に参りました。前者では国立大学図書館協会海外派遣事業として、英国図書館を中心に資料保存関連の事業・施設の見学調査を行いました。後者では国立情報学研究所経費による出張に同行し、米国とカナダの3大学図書館（ロチェスター大学、クィーンズ大学、トロント大学）にて電子情報資源の管理提供の動向を視察しました。それぞれ「大学図書館研究」86号、「ERMS実証実験平成20年度報告書」に出張報告が掲載されています。多くの方々のご指導、助言のおかげで無事に用務を終えられたことに、感謝申し上げます。

次稿は、全く偶然ながら、短期間の内に多岐に渡るテーマで公務出張に出して頂いた経験をまとめた拙文です。現地でお世話になった方々へのお礼と、日本の事情を紹介する試みを兼ねて英文で書かせて頂き、抄訳を添えています。2度の出張には思いがけず接点もあり、また、それぞれに視察調査した事項を統べて考える機会を与えられたように感じたことが、執筆の動機となりました。調査テーマの報告そのものについては割愛しておりますので、詳細は前述の報告書をご参照頂ければと思います。

最後に、今後も多くの方が国内外を問わず見学、出張や研修の機会を得られて、サービスや業務の向上に役立つ見聞を共有できればと願っております。

2. 抄訳・2つの世界は衝突しない

平成20年度に、私は1週間の海外出張の機会を2度頂きました。それぞれの出張のテーマ、資料保存と電子情報資源の管理提供は、訪問準備当時の業務に多少なりとも関連がありました。そのように広範な業務を同時に担当していたわけではなく、ジョブローテーションで配属が変わり、それぞれ前後して関わるようになったものです。平成19年当時、雑誌担当係の配属で業務中に古い製本雑誌を手にしたことから資料保存に関心を持ち、このことが最初の出張へと繋がりました。システム関係の部署に異動

になって間もなく北米出張のオファーを頂いて経験したことは、後になって、業務に直結する貴重な機会であったことを実感しています。

ジョブローテーションは、日本の国立大学図書館では現在一般的に行われています。最近では多様化しつつあるとはいえ、一つの、または関連の組織で様々な部署を異動しながら長く勤務するというスタイルは、依然として日本の人事制度の中で随所に見られるものです。ジョブローテーションには長短両面があります。短所として、スペシャリストが育たない、短期的には人材育成コストの損失であるという指摘がありますが、少なくとも私の職場では、配属や職務記述書で個人の職責が固定されず、配属に縛られずに個人の資質を尊重する、また短期的な損失を組織全体で補完するといった柔軟性があるように思います。利点としては、長期雇用が前提の環境では人の移動による職場活性化があり、また、チェンジマネジメントや、個別業務を実体験から俯瞰できる等の効果が挙げられます。私の場合は異動を機に、蔵書劣化と電子化とアクセス提供について、個々の見聞を総じて考える視点を得たように思います。

資料保存と電子情報資源の管理提供は、それぞれが奥の深い専門業務であると同時に、情報の蓄積と提供という図書館の使命を遂行するための延長線上にあり、そういう意味では衝突しない世界であると、これらの経験を通して感じました。お世話になりました皆様に心からお礼を申し上げます。

3. Two Worlds Not Colliding

In the 2008 Japanese academic year, I was given the chance to take two one-week study trips abroad. I visited the UK in July 2008 with an award from JANUL, or the Japan Association of National University Libraries. I was sent to observe how the libraries in the UK addressed the preservation and conservation of their collections. Seven months later, in February 2009, two Japanese librarians from Kyushu University and I visited the US and Canada to investigate the use of the electronic resources management and discovery systems in three university libraries as sponsored by the National Institute of Informatics.



The themes of the visits, namely library preservation and e-library solution, were related to my job responsibilities as a university librarian. I had been working on serials acquisition and cataloging at the University of Tsukuba Library in 2007 when I applied to the JANUL overseas study program. My first encounter with library preservation came when I handled very old and brittle bound periodicals. There are no professional preservation and conservation staffers in my library, which is often the case in academic libraries in Japan. In my personal view, preservation and conservation tend to be regarded in this country as part of management or contingency planning carried out with no in-house conservators or preservation librarians. When I was transferred to the Digital Library Services section of the library, my primary focus switched to all things digital. In hindsight, the offer to visit the US and Canada boded well for me, because I was immersed completely in the realm of new and cutting edge information regarding an area of library practice with which I was relatively unfamiliar.

Job rotation is still, at least in the Japanese national university library's setting, typical and is related to a personnel system that is based on long-term or lifetime employment. There are both the advantages and disadvantages to job rotation. Job rotation may undermine short-term productivity as well as long-term career development, especially in a country where employees rotate so frequently. Rotation may thus result in opportunity costs such as increased training expenses or burdens on more experienced co-workers. In my own experience, however, employees are also not always strictly confined to their own section's tasks and there is no definite job description for each employee. In that sense, flexibility does exist within the organization, which enables the library to maximize each employee's capabilities. Job rotation also has powerful advantages. It rejuvenates staffers and avoids their being in the same place for long periods of time. It also helps them broaden their horizons, learn to adapt to changes and new practices, and exposes them to every aspect of library operations. In my case, I could gain a bird's eye view of preservation, digitization, resource discovery solutions and

public access in a comprehensive manner.

When I went on both of my research trips, I had only a basic understanding of the topics I was sent to explore. The rotation system had led me to have limited exposure to the worlds of library preservation and digital services and the trips therefore gave me the opportunity to completely involve myself in these subjects, a chance which the job rotation system inherently denies. I also enjoyed the crossover of the topics, which helped me gain the deeper understanding on the both. When visiting the UK, I tried to make the most of the opportunity not limiting to preservation study. I had a reader's pass for the British Library issued so that I could try services including utilizing the online catalog, using e-resources and digitized materials, calling up several books and journals and accessing photocopy services. I can now log on to the catalog and enjoy some of these sophisticated services from a distance, which is beneficial to my job designing access-oriented library services at home. When visiting the US and Canada, I had the opportunity to visit the book conservation lab of a university library and to talk about some technology-related issues of how to make e-resources, self-scanned, purchased, or open-access, more accessible and reachable. Mass digitization made with the IT giant and its related issues such as scanning quality control and metadata standards were the topics I heard about in common. I was able to capitalize on what I had seen in the UK when discussing these matters in the US and Canada.

Library preservation and digital services may seem totally different at a glance, but both are the operations for a single mission to collect the works and provide the bibliographic, virtual, tangible and perpetual access to the collections. In this sense, the two worlds are not colliding to each other but are conceptually interlinked, which I felt opened my eyes quite a lot. I would like to express my great thanks to all the people who supported me and gave me the amazing opportunity to embark upon my research trips. As a result of my experiences, I strongly desire to contribute to national and international library efforts to bequeath historical records as well as state of the art achievements to the next generation.

5 職員の活動

金藤 伴成 KINTO Tomonari

SPARC Digital Repositories Meeting 2008 への参加とカナダ4機関への訪問

1. はじめに

平成20年11月にリポジトリに関する国際会議、「SPARC Digital Repositories Meeting 2008」へ参加するとともに、オタワにある4機関を訪問してカナダのリポジトリ構築状況を視察し、意見を交換する機会をいただきました。

2. SPARC Digital Repositories Meeting 2008¹⁾

この国際会議は11月17日・18日の2日間、アメリカ合衆国メリーランド州、ボルチモアで開催され、10カ国から約300名が参加しました。

初日最後のセッション「イノベーションフェア」の中で筆者は筑波大学が中心となって構築している学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ)²⁾を紹介しました。

日本ではまだオープンアクセスの理解が十分でなく、SCPJデータベースに収録されている約3/4の学協会が著作権ポリシーを明らかにしていない中、この状況を変化させるためにWebページの開設や学協会とのミーティングを重ねていることを説明しました³⁾。発表後、聴衆の一人から「SCPJのグレー(著作権ポリシー検討中・非公開)の考え方は面白い」とコメントを寄せてくれました。

このセッションは初日の夕方に催され、レセプション(懇親会)を兼ねていたため、会場の人々はお酒を飲みながら和やかな雰囲気の中で聞いていました。ただ一人、筆者だけが異様に緊張しながら発表に臨んだような気がします。



イノベーションフェアで発表する筆者

3. カナダ4機関への訪問

国際会議のあと、ボルチモアからオタワ(カナダ)へ移動し、11月21日・22日の2日間で4つのリポジトリ関連機関を訪問し、意見交換しました。

CARL (Canadian Association of Research Libraries) とオタワ大学ではカナダの大学における機関リポジトリの構築の状況全般を聞きました。International Development Research Centreでは途上国への研究助成の状況と、研究成果のリポジトリ(IDRC Digital Library)への登録状況を見ることができました。ドキュメントデリバリーサービスでも有名なNRC-CISTIでは主にNRCでの研究成果の公開と登録の義務化(マンドート)方針について伺いました。

リポジトリコンテンツの抄録を英仏2ヶ国語で登録するなど、カナダならではの話を聞くことができました。また、日本の機関リポジトリ構築状況やSCPJなどについて紹介しました⁴⁾。

4. おわりに

渡航にあたって附属図書館の皆さんに様々な配慮、支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

5. 渡航日程

月 日	訪問機関等
11.16(日)	移動:成田→ボルチモア
11.17(月)	SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (1日目)
11.18(火)	同上 (2日目)
11.19(水)	移動:ボルチモア→オタワ
11.20(木)	CARLおよびオタワ大学 IDRC
11.21(金)	NRC-CISTI
11.22(土)	移動:オタワ→成田

- 1) ミーティング全体の模様は別途以下に報告しました。
金藤伴成, "集会報告: SPARC Digital Repositories Meeting 2008", 情報管理, Vol. 51, No. 11, (2009), p.833-836.
- 2) SCPJについては次の文献に詳しく述べられています。
富田健市, 斎藤未夏, 平田完, "ごぞんじですか? SCPJ", 専門図書館, No.228, (2008) p.45-49.
- 3) Innovation Fair の報告資料は下記に公開されています。
<http://www.arl.org/sparc/meetings/ir08/innofair.shtml>
(accessed 2009.05.15).
- 4) オタワでの4機関の訪問の様子は、同行した野中雄司氏(北海道大学附属図書館)が詳しい報告を寄せています。
野中雄司, "The SPARC Digital Repositories Meeting 2008 への参加とカナダ訪問", 北海道大学附属図書館報「楡蔵」, No. 131, (2009), p.14-16.

2. 学外研修／シンポジウム等における発表・講師、論文発表等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1. 執筆活動

嶋田晋. 特集, ソフトウェア活用のススメ: 日々の仕事を少し楽に: 小粒で便利なフリーソフト. 情報の科学と技術. 2008, vol.58, no.5, p.226-231.

フリーソフトウェアの中から、主に業務に有用と思われるもの3点を、実際の使用例とともに紹介します。

→ Webでフルテキストを入手できます。

つばりポジットURL

<http://hdl.handle.net/2241/101686>

「情報の科学と技術」Webサイト (INFOSTA)

<http://www.infosta.or.jp/journal/200805j.html#4>

嶋田晋. 特集, わが図書館をブランドにするために!: "ちゅーりっぷさん"と"がまじゃんぱー"はこうして生まれた. 大学の図書館. 2008, vol.27, no.9, p.174-176.

割と人知れず誕生しながら、「はてなダイアリー」のキーワードになるなど一人歩きを始めた筑波大学附属図書館のキャラクターである"ちゅーりっぷさん"と"がまじゃんぱー"について、2人がどのようなきっかけで誕生し現在に至ったかを解説します。

→ Webでフルテキストを入手できます。

つばりポジットURL

<http://hdl.handle.net/2241/101738>

金藤伴成. 集会報告: SPARC Digital Repositories Meeting 2008. 情報管理. 2009, Vol. 51, no.11, p.833-836.

SPARC Digital Repositories Meeting 2008の報告論文 (関連ページp.14)。

→ Webでフルテキストを入手できます。

つばりポジットURL

<http://hdl.handle.net/2241/101680>

「情報管理」Webサイト (科学技術振興機構)

<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.51.833>

岡部幸祐, 金成真由子. 図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活, どうですか?」の企画と制作: 利用案内ビデオから学生志向のプロモーションビデオへ. 大学図書館研究. 2009, 第85号, p.1-11.

図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活, どうですか?」の企画・制作・公開に関する報告論文 (関連ページp.8)。

2. 講師・事例報告

開催日	氏 名	催し名【テーマ・レジュメ・参考URL】
2008.6.13	平田 完	平成19年度CSI委託事業報告交流会 (コンテンツ系) (国立情報学研究所) ~機関リポジトリ (IR) から広がる学術情報発信・流通: 最新動向から課題解決まで~ 【テーマ】 国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/irp/event/2008/debrief/pdf/5-04_tukubadai.pdf
2008.7.23	斎藤 未夏	平成20年度学術ポータル担当者研修 (名古屋大学) 【テーマ】 機関リポジトリと著作権・演習 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h20/txt10-1.pdf http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h20/txt10-2.pdf http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h20/txt10-3.pdf
2008.8.28	斎藤 未夏	平成20年度学術ポータル担当者研修 (国立情報学研究所) 【テーマ】 機関リポジトリと著作権・演習 【レジュメ】 同上
2008.11.11 -11.13	斎藤 未夏	Berlin 6 Open Access Conference (Dusseldorf) 【テーマ】 Try Reversil! From Gray to Green 【参考URL】 http://www.berlin6.org/
2008.11.17 -11.18	金藤 伴成	SPARC Digital Repositories Meeting 2008 Innovation Fair (Baltimore) 【テーマ】 SCPJ project: Promoting Japanese Scholarly Societies 【参考URL】 http://www.arl.org/sparc/bm/doc/kinto.pdf
2008.11.27	関川 雅彦 斎藤 未夏	第4回DRFワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ2008」(パシフィコ横浜) 【テーマ】 リポジトリを背負う人材育成 デジタル時代の学術情報流通と著作権 【参考URL】 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?plugin=attach&refer=DRF4&openfile=2-4SCPJ.pdf
2008.12.10	植松 貞夫	国立大学図書館協会シンポジウム 学術情報流通の改革を目指して ~電子ジャーナルが読めなくなる2~ 【テーマ】 ビッグ・データ崩壊後のシミュレーション
2009.1.29	高橋 努 中山 知士	国立大学図書館協会東京地区・関東甲信越地区合同事業大学図書館職員研修「adlライブラリー ~大学図書館効果的広報戦略~ 【テーマ】 「主役はキミたち学生だ! ~学生志向のプロモーションビデオ制作~」 「週5図書館生活, どうですか? The Movie」企画制作に係る事例報告 【レジュメ】 http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/operations/promotion/resume_20_1/jirei2.pdf
2009.2.9	斎藤 未夏	DRF地域ワークショップ (東京地区) DRF-Ookayama (東京工業大学) 【テーマ】 機関リポジトリと著作権・演習 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/irp/event/2008/debrief/pdf/5-04_tukubadai.pdf
2009.3.9	斎藤 未夏	第8回つばりWANシンポジウム (筑波大学) 「つばりサイエンスリポジトリ」の構築 - 科学の街TSUKUBA再発見プロジェクト 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/102006

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2007年3月	図書館WEBサービス拡大（相互貸借可能に） 学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ:Society Copyright Policies in Japan) 公開
2007年5月	e-DDSサービス開始(教員対象)
2007年9月	Webによる学生の購入希望図書の受付開始
2008年2月	筑波一東京キャンパス間図書取り寄せサービスのWeb申込を開始
2008年3月～4月	中央図書館耐震改修工事のため、教員向けに「改修長期貸出」を行う
2008年3月	Webによる教育用図書の教員推薦図書の受付開始
2008年4月	医学図書館の土・日・祝日の開館時間延長 図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活、どうですか？」 公開
2008年9月	A書庫の臨時的利用開始
2008年11月	「つくばリポジトリ」登録コンテンツ 2万件突破
2008年12月	附属図書館研究開発室年次報告（平成18～19年度）発行

2. 見学・来訪者

日 付	内 容
2008年4月2日	Pochon CHA University(韓国) 22名
2008年4月21日	台湾国家科学委員会 8名
2008年5月9日	北京航空航天大学 5名
2008年5月21日	青梅の図書館を考える会 8名
2008年7月28日～30日	オープンキャンパス 訪問者 1,758名
2008年8月8日	筑波技術大学保健学科 18名(医学図書館)
2008年10月23日	ベトナム国立図書館長 3名
2008年11月27日	JICA研修員 12名

3. オリエンテーション・講習会

日 付	内 容
2008年4月	新入生オリエンテーション(学群生) 参加者 2,257名
2008年4月	新入生オリエンテーション(院生) 参加者 361名
2008年4月	新任教員オリエンテーション 参加者 19名
2008年4月～6月、9月～10月	留学生オリエンテーション 参加者 184名
2008年4月～6月	フレッシュマンセミナー(各学類等) 参加者 510名
2008年4月～6月	オーダーメイド講習会 参加者 99名
2008年4月～6月、9月～10月	データベース講習会(PubMed,CINAHL,LexisNexis など) 参加者 251名
2008年9月	授業「基礎科学実験」の2週分を担当
2008年9月～10月	授業「知の探検法」の4回分を担当 受講生 14名

4. 研修・シンポジウム

日 付	内 容
2007年9月19日	国立大学図書館協会シンポジウム（東日本会場）「若きライブラリアンの海外研修:Global Librarian Network の形成を求めて」開催（参加者95名）
2008年7月7日～7月18日	平成20年度大学図書館職員長期研修（受講生35名）
2008年7月14日～8月1日	図書館情報学実習（実習生2名）
2008年11月18,19,21日	筑波大学新人職員研修「業務体験」（研修生4名）
2009年3月4日	茨城県図書館協会大学図書館部会研修会「行列のできる図書館の作り方」開催（参加者81名）

5. 会 議

日 付	内 容
2008年5月30日	平成20年度第1回附属図書館運営委員会
2008年6月17日	平成20年度第1回附属図書館ボランティア専門委員会
2008年6月19日	平成20年度第1回附属図書館研究開発室運営会議
2008年6月20日	平成20年度第1回附属図書館収書専門委員会
2008年7月4日	平成20年度第2回附属図書館運営委員会
2008年7月4日	平成20年度第2回附属図書館収書専門委員会
2008年7月10日	平成20年度第1回図書館情報学図書館専門図書館委員会
2008年7月18日	平成20年度第3回附属図書館運営委員会
2008年9月22日	平成20年度第3回附属図書館収書専門委員会
2008年9月26日	平成20年度第4回附属図書館運営委員会
2008年11月20日	平成20年度第1回電子ジャーナルの整備に関する検討WG（教育研究評議会の下でのWG）
2008年12月4日	平成20年度第2回電子ジャーナルの整備に関する検討WG
2008年12月16日	平成20年度第2回附属図書館ボランティア専門委員会
2008年12月18日	平成20年度第2回図書館情報学図書館専門図書館委員会
2008年12月24日	平成20年度第4回附属図書館収書専門委員会
2009年2月5日	平成20年度第3回電子ジャーナルの整備に関する検討WG
2009年3月3日	平成20年度第5回附属図書館運営委員会
2009年3月23日	平成20年度第2回附属図書館研究開発室運営会議

6. その他

日 付	内 容
2007年9月21日	中央図書館で避難訓練を実施
2008年3月18日	中央図書館2階エントランスホールにコーヒーショップがオープン
2008年3月27日	（台湾）国立政治大学に不用図書を寄贈
2008年7月1日～2009年3月6日	中央図書館耐震改修工事（第1期）
2009年3月	中央図書館1階と2階に防犯カメラを設置

※「トピックス」では、平成18（2006）年度～平成20（2008）年度の主な出来事を記載しました。

メディアにみる附属図書館

学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日 付	掲載元	メディア	掲載内容
2007年 1月23日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	学協会著作権ポリシーデータベース公開
5月30日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	筑波大学図書館、国内リポジトリ横断検索システムを試験公開
2008年 2月6日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	筑波大学、附属図書館に「スターボックス」を誘致
2月6日	カレントアウェアネス-E No.122	web	大阪で「デジタルリポジトリ連合国際会議2008」開催（ポスターセッションで筑波大学附属図書館が最優秀ポスター賞に選ばれた。
2月28日	速報つくば 2008/04	学内広報誌	「つくばリポジトリ」がWebometrics Ranking of World Universities で世界第8位（国内第1位）にランクイン
3月7日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	図書館情報メディア研究科宇陀研究室で筑波大学図書館の使い方をアニメーション仕立てで解説する“Tulips tutorial”を作成・公開
4月8日	筑波大学新聞 第268号	学内新聞	読者からの意見 大学にスターボックスは必要か
4月8日	筑波大学新聞 第268号	学内新聞	学術情報提供システム つくばリポジトリ世界8位
4月8日	筑波大学新聞 第268号	学内新聞	スターボックスオープン 利用者に憩いの場提供
4月8日	筑波大学新聞 第268号	学内新聞	投書 耐震工事に伴う図書館閉鎖 研究活動への配慮を
4月10日	朝日新聞朝刊茨城版	新聞	大学新聞紙上ホットに議論 ー筑波大学図書館内にスターボックス
4月11日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	筑波大学附属図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活、どうですか？」THE MOVIEをWebで公開
5月12日	筑波大学新聞 第269号	学内新聞	図書館一部閉鎖問題 植松附属図書館長に聞く
5月12日	筑波大学新聞 第269号	学内新聞	図書館のあり方とは 逸村教授談
9月1日	筑波大学新聞 第271号	学内新聞	図書館耐震工事 今月上旬から通常入館可能に
9月10日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	筑波大学附属図書館、検索履歴を利用した機関リポジトリ横断検索システムを開発
9月10日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	筑波大学附属図書館プロモーションビデオ「週5図書館生活、どうですか？」に対するアンケート結果
10月27日	ツクナビ http://www.tsukunavi.com/home/	web	読書の秋 大学図書館にまつわる裏話表話
11月11日	週刊ゴルフダイジェスト NO.43 P.256	雑誌	実際に読んでみよう ーここに行けば貴重なゴルフ本が見られるー
12月15日	筑波大学新聞 第274号	学内新聞	留学生の目 図書貸出に工夫を
2009年 2月2日	筑波大学新聞 第275号	学内新聞	反響 図書貸出
3月16日	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	web	学協会著作権ポリシーデータベース（SCPJ）がリニューアル（日本）

※「メディアにみる附属図書館」では、平成18（2006）年度～平成20（2008）年度に発表された記事を記載しました。

翻刻・影印・放映等許可リスト

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2008.4.25	影印 (一部)	和装古書	拾芥抄	イ200-9	10076870449	「わかりやすい土木の実務」 平成20年9月20日
4.25	影印	和装古書	永代御江戸繪圖 安政改正府郷御江戸繪圖	ネ040-647 ネ040-210	10076904357 10076904195	「東京都ガイドブック」 (英語・フランス語・スペイン語・中国語) 東京都産業労働局 平成20年7月初旬
5.7	動画作成・放映	和装古書	伊曾保物語	ル150-2	10076718271	NHK「ダーウィンが来た!生きもの新伝説」 平成20年6月1日
6.3	影印	貴重	聖賢画像(朱子)	721.4-Ka58	10077242289	週刊「歴史のミステリー」31号「朱熹」 平成20年8月26日
6.20	動画作成・放映	和装古書	百練抄 吾妻鏡 編纂本朝尊卑分脉圖 三浦古尋録 源平盛衰記 豆相武房總沿海圖	ヨ380-5 ヨ380-527 タ120-6 ネ314-87 ル140-33 ネ040-141	10076851449 10076855304 10076856218 10076731472 10076720735 10076904145	テレビ東京 「新説!日本ミステリー」 平成20年6月24日または7月1日
8.26	動画作成・放映	和装古書	先代舊事本紀	ヨ240-96	10076850032	日本テレビ系列 「人類の危機大検証スペシャル」 平成20年9月18日
9.1	影印	和装古書	大清輿地全圖	ネ040-248	10076904219	アジア遊学「東アジアの文学圏」 平成20年9月20日
9.8	影印 (一部)	和装古書	常陸風土記	ネ314-1	10076716925	「図説最新日本古代史」(仮題) 平成20年10月28日
10.6	影印 (一部)	和装古書	吉御記(寿永元年七月六日)	ヨ216-36	10076738200	「年中行事大辞典」 平成21年2月
10.20	放映・Web掲載	貴重	Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di Papa Greg. XIII. (教皇グレゴリオ13世伝/ チアッピ著) 「少年使節謁見の図」 「セミナリヨの図」	198.221-B39	10079324032	「学校デジタルライブラリー社会」 (BS2 平成21年1月以降) 「10miボックス社会」 (教育テレビ 平成21年4月以降) NHK学校放送ホームページ http://www.nhk.or.jp/school/ 平成21年4月以降
11.4	出版	貴重	筑波大学附属図書館所蔵石 清水八幡宮文書(関東御教書)	石清水	10003015106	「中学校スタンダード 歴史資料 山口県版」 平成21年4月
12.1	出版	和装古書	文部省発行錦繪:衣喰住之 内家職幼繪解之圖等(鬼瓦・ 樋づくり・壁板のぬめり)	ヘ950-宮196	10088015236	「彩」読物特集「日本の美・色の謎とき」 平成21年1月8日 社団法人日本塗料工業会
12.22	出版	和装古書	古今和漢萬寶全書 増補古筆名葉集	カ120-8 カ210-34	10076868683 10076868925	「書芸術研究」 平成21年3月
2009.1.7	出版	和装古書	義太夫節根元抄	ル280-3	10076723535	「浄瑠璃本史研究」八木書店 平成21年1月31日
1.9	動画作成・放映	貴重	Lettera annua di Giappone (1601年度日本年報)		10079324142	「日本史サスペンス劇場」 日本テレビ放送網 19:58-20:54 平成21年2月4日
1.15	出版	和装古書	北蝦夷圖説		10076909107	「図説・江戸の科学技術力」 学習研究社 平成21年2月
2.17	出版	貴重	北野社家日記:天正十九年 自閏正月至三月(天正19年 閏正月29日祭)	北野社	10003015182	「茶の湯といけばなの歴史」 熊倉功夫著 平成21年3月20日
3.26	出版	和装古書 貴重	二國會盟録 The general history of China, Volume the Fourth Nouvel atlas de la Chine, de la Tartarie chinoise et du Thibet	ヨ500-2 H620-d3-4 K040-*65	10076729182 10076454887 洋137323	「社会文化史学」第52号 社会文化史学会 平成21年5月1日
3.27	動画作成・放映	和装古書	小學生徒心得	ヘ000-宮939	10088013730	NHK BShi BS2 「双方向クイズ にっぽん力」 平成21年3月28日 22:00-23:00

※全52件から抜粋したものです。

附属図書館ボランティアの活動

1. 平成20年度ボランティア構成

●男性：7 ●女性：34 計41名

〈年齢内訳〉

●30代：1 ●40代：7 ●50代：15

●60代：15 ●70代：3

2. 新規ボランティア募集の休止

中央図書館耐震改修工事開始に伴い、活動範囲の縮小が避けられないことから、ボランティア創設以来、毎年行っていた新規ボランティア募集を休止しました。

3. 活動の縮小

●高校生の見学案内を休止

●利用環境整備活動範囲：1階、中2階を除く

さらに3月の春季休業期間中は、4階カウンターも閉鎖し、総合案内は対面朗読以外全て休止とし、利用環境整備は5階のみでの活動となりました。

4. 新たな活動

意見交換会等で検討された不明図書の探索、体芸図書館でのフレッシュマンセミナーにおける見学案内を新たに開始しました。

5. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,993人
(学内者：1,792人 学外者：201人)

●図書館見学案内 件数：21 人数：775

中央図書館：15件 535人

体芸図書館：6件 240人

●対面朗読 時間：212

2 利用環境整備・特殊資料整理

●シェルフリーディング数 4,743連
(中央図書館：3,774 体芸図書館：969)

●不明図書の発見 28冊

●ラベル補修 1,050冊

(中央図書館：832 体芸図書館：218)

●図書修理冊数 524冊

(中央図書館：88 体芸図書館：436)

3 体芸図書館ポスター整理 506枚

6. 年間行事

1 フォローアップ研修

●業務紹介(レファレンス、リポジトリ) 6月

●学内見学(計算科学研究センター) 11月

●学外見学(東京都立中央図書館) 1月

2 ボランティア講演会 11月

3 意見交換会

●利用環境整備 11月

●総合案内 12月

4 修理勉強会 1月、2月

5 ボランティア懇談会 2月

ボランティア懇談会は図書館外に会場を移し開催しました。

参加者 ボランティア：22名 教職員：16名

耐震改修工事、平成21年度の図書館の方針などについて質疑応答が交わされました。



ボランティア懇談会風景

7. その他の活動

●伊万里市民図書館見学 6月

●カウンター勉強会 9月

●国会図書館見学 10月

●製本工場見学 11月

●留学生のための折り紙講習会 7,12,2月

その他の活動もさまざまに展開しました。特に「留学生のための折り紙講習会」は毎回10数名の参加があり、総数は42名と好評でした。



折り紙講習会風景

8. 広報誌「うたがき」Web公開をスタート

第17号は地域住民が利用出来る大学内の施設や行事を特集し、図書館HPからも公開を開始しました。

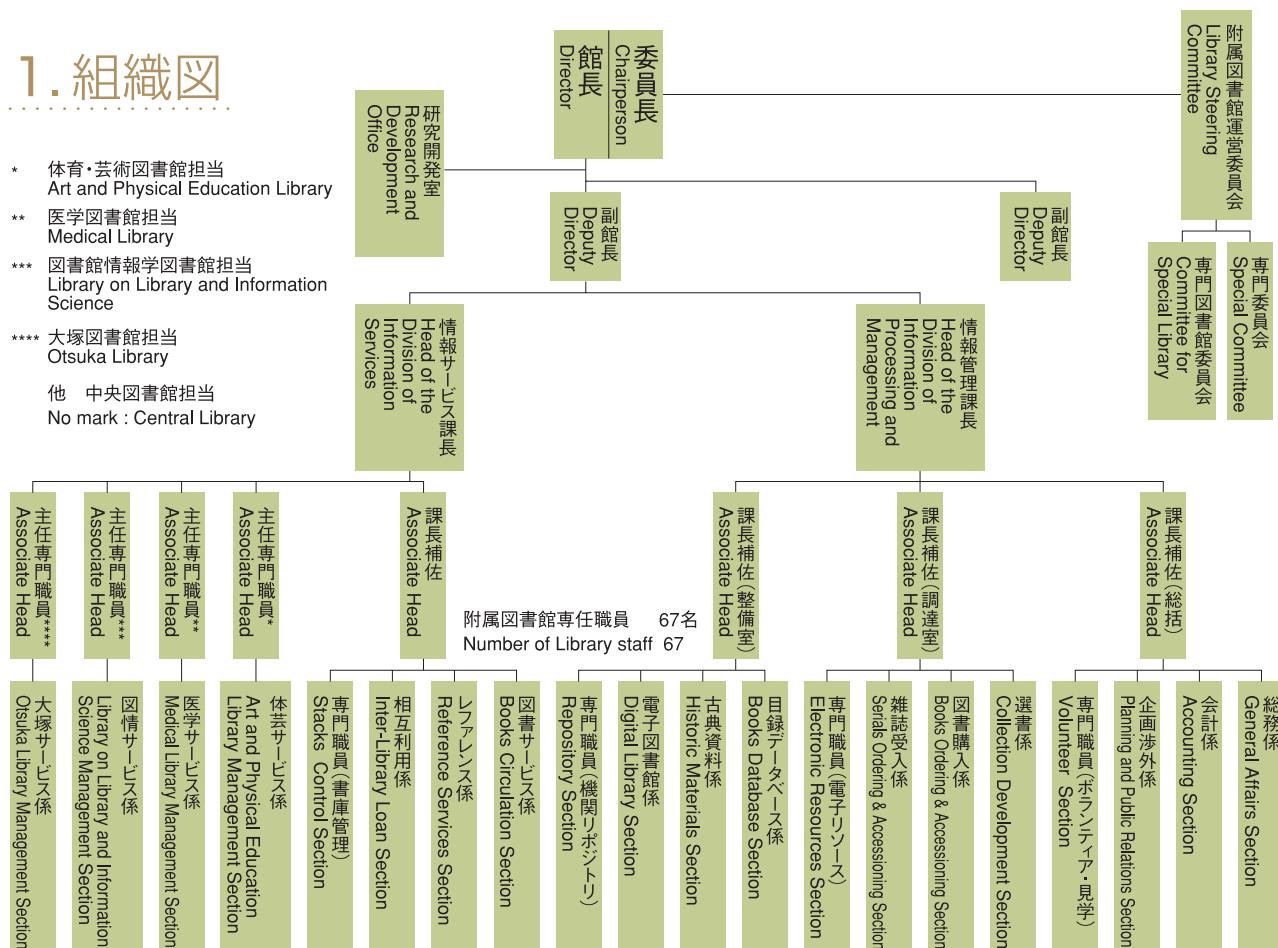
(見学・ボランティア担当専門職員 仲川 敦子)

組織図・歴代館長

中央図書館2F キャレルデスク

1. 組織図

- * 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library
- ** 医学図書館担当
Medical Library
- *** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science
- **** 大塚図書館担当
Otsuka Library
- 他 中央図書館担当
No mark : Central Library



(平成20年7月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名 前	期 間	備 考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 宏	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	

	名 前	期 間	備 考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大賀 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~	3期

統計

平成20(2008)年度

利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	239	240	240	241	242	
	土・日・祝日	80	81	109	111	106	
	合計	319	321	349	352	348	
入館者数(人)	平日	494,623	164,268	165,509	50,997	16,998	892,395
	(学外者 内数)	(22,765)	(2,845)	(7,942)	(3,997)	(1,010)	(38,559)
	土・日・祝日	60,450	20,294	39,591	8,535	8,822	137,692
	(学外者 内数)	(5,341)	(655)	(4,001)	(931)	(401)	(11,329)
	合計	555,073	184,562	205,100	59,532	25,820	1,030,087
	(学外者 内数)	(28,106)	(3,500)	(11,943)	(4,928)	(1,411)	(49,888)
平均入館者数(人)	平日	2,070	684	690	212	70	
	(学外者 内数)	(95)	(12)	(33)	(17)	(4)	
	土・日・祝日	756	251	363	77	83	
	(学外者 内数)	(67)	(8)	(37)	(8)	(4)	
	合計	1,740	575	588	169	74	
	(学外者 内数)	(88)	(11)	(34)	(14)	(4)	
貸出冊数(冊)	学群生	110,439	21,707	20,223	12,624	926	165,919
	院生	123,506	22,595	7,047	9,653	8,551	171,352
	教員	42,146	4,824	3,578	3,117	2,777	56,442
	学外者	4,282	448	725	769	221	6,445
	その他	15,362	0	84	0	0	15,446
	合計	295,735	49,574	31,657	26,163	12,475	415,604
貸出利用者数(人)	学群生	46,912	8,963	10,551	6,140	699	73,265
	院生	40,260	7,976	2,943	3,949	4,343	59,471
	教員	6,702	852	1,338	825	430	10,147
	学外者	1,885	245	357	373	120	2,980
	その他	85	43	23	21	13	185
	合計	95,844	18,079	15,212	11,308	5,605	146,048
文献複写件数(件)	学外依頼	9,291	2,367	4,137	388	2,973	19,156
	学外提供	3,790	440	1,004	170	301	5,705
	学内遠隔地提供(紙)	1,032	289	357	105	393	2,176
	学内E-DDS	857	78	461	45	84	1,525
	合計	14,970	3,174	5,959	708	3,751	28,562
相互貸借件数(件)	学外借受	2,099	206	16	92	234	2,647
	学外貸出	2,260	107	10	149	39	2,565
	合計	4,359	313	26	241	273	5,212
レファレンス件(件)	学生	15,082	4,233	2,515	1,513	6,276	29,619
	教職員	3,053	505	3,444	688	815	8,505
	その他	1,006	98	238	159	63	1,564
	合計	19,141	4,836	6,197	2,360	7,154	39,688
	資料に関するもの	13,616	3,273	5,057	1,504	5,874	29,324
	利用案内・指導	5,482	1,563	1,136	846	1,280	10,307
	事実に関するもの	43	0	4	10	0	57
	合計	19,141	4,836	6,197	2,360	7,154	39,688

電子図書館アクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	2,423,490
学外	977,724
合計	3,401,214

つくばリポジトリアクセス件数	件
セッション数	184,536
ページビュー数	577,261

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier (ScienceDirect)	435,026
Wiley-Blackwell (InterScience)	102,714
Springer (LINK)	67,465
Oxford University Press	29,589
Cambridge University Press	5,735
Nature	30,233
Science	22,948

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	171,676
SciFinder Scholar	13,888
FirstSearch	8,215
Journal Citation Reports on Web	10,768
LexisNexis	4,876
CiNii	524,300
医学中央雑誌	447,427

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積 (m ²)	19,092	3,518	2,793	3,166	1,105	29,674
座席数 (席)	646	423	352	218	171	1,810
利用者用PC台数 (台)	158	71	75	14	25	343

※平成21(2009)年5月1日現在

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
図書の受入 (和洋区分)						
和書	12,887	3,132	1,624	2,130	693	20,466
洋書	4,445	501	359	499	78	5,882
合計	17,332	3,633	1,983	2,629	771	26,348
(受入区分)						
購入	8,079	1,811	1,329	1,697	507	13,423
寄贈	8,434	1,820	650	931	264	12,099
製本	807	0	4	0	0	811
その他	12	2	0	1	0	15
合計	17,332	3,633	1,983	2,629	771	26,348
図書の除却						
和書	-3,913	-3	-14	-1	0	-3,931
洋書	-4,820	-1	0	0	-14	-4,835
合計	-8,733	-4	-14	-1	-14	-8,766
蔵書数						
合計	1,797,006	238,763	169,279	235,134	52,505	2,492,687

(*平成20年度末時)

電子ジャーナル提供タイトル数

(*無料誌も含む)

内 訳	タイトル数
Elsevier (ScienceDirect)	2,076
Wiley-Blackwell (InterScience)	1,328
Springer (LINK)	1,224
Oxford University Press	181
Cambridge University Press	202
Ingenta Connect	129
NII-ELS	3,192
DOAJ (オープンアクセス)	3,744
J-STAGE	514
本学紀要	73
その他	1,762
合計	14,425

雑誌 (冊子) 受入タイトル数

(タイトル)

内 訳	購入	寄贈	計
和雑誌	1,716	6,395	8,111
洋雑誌	3,299	638	3,937
合計	5,015	7,033	12,048

つくばリポジトリ 累積登録件数

内 訳	タイトル数
学術雑誌掲載論文	1,977
学位論文全文	1,497
学位論文内容・審査の要旨	5,664
紀要論文	10,632
研究成果報告書	687
会議発表資料	27
講義資料	7
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	27
その他 (図書)	2
合計	20,543

提供データベース・検索ツール

●学内・館内限定

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder Scholar
FirstSearch
LexisNexis
SportDiscuss
Japan Knowledge
Westlaw Japan
D1-Law.com
Art Abstracts (Wilson)
CINAHL
医学中央雑誌
Cinii
Books in Print
Ulrich
官報
Powder Diffraction File

●学外公開

データベース・検索ツール名
PPRBASE 捕食・寄生昆虫データベース
沖縄歴史文庫データベース
応用動物昆虫データベース
日本美術シソーラスデータベース (試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
学協会著作権ポリシーデータベース
機関リポジトリ横断検索

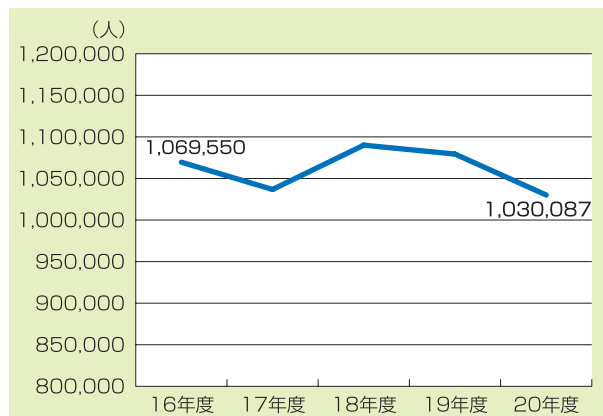
統計

平成20(2008)年度

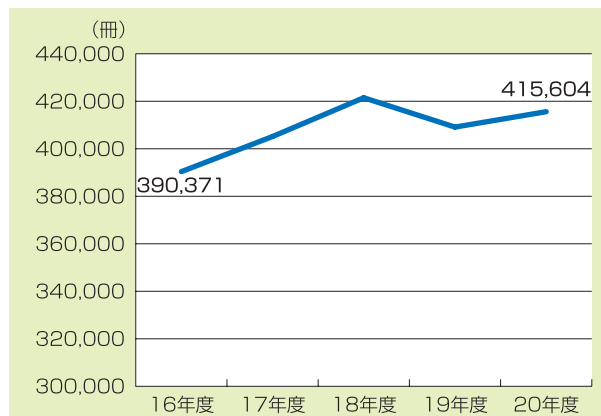
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



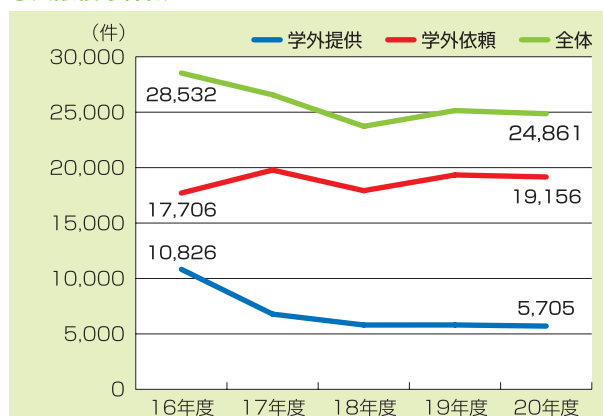
●貸出冊数



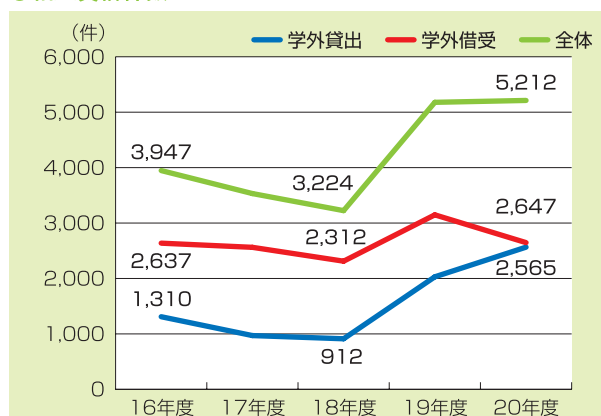
入館者数は、昨年度から全体で約49,000人(4.6%)減少しています。これは、中央図書館の耐震改修工事の影響と非来館型サービス(電子ジャーナル、Web貸出更新など)の浸透が原因の一つと考えられます。館別に見ますと、中央図書館は約11%減少しておりますが、医学図書館は約10%。図書館情報学図書館で約7%、大塚図書館で約9%の増加がありました。医学図書館は、土・日・祝日の開館時間が延長になった効果が現れています。図書館情報学図書館の増加は、中央図書館からの資料移動(工事のための仮置き)の影響が考えられます。

入館者が減少しているのに、貸出冊数が増加している理由は、耐震改修工事のための特別貸出により、通常より大量の貸出があった影響です。

●文献複写件数



●相互貸借件数



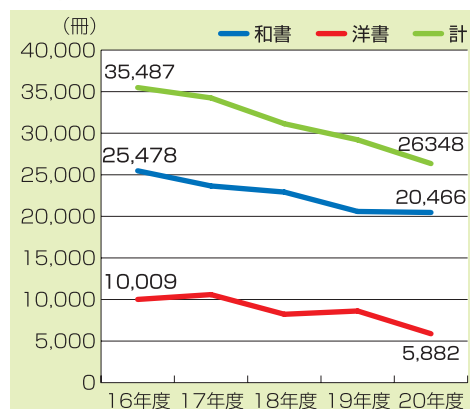
文献複写件数は、昨年度と比較して学外への依頼と提供が共に減少しています。電子ジャーナルのアクセス環境の向上が要因と考えられます。

相互貸借件数は、学外からの借受が減少して、学外への貸出が増加しております。借受の減少は、平成19年度に始めた選書班による選書体制の効果も一因と考えられます。学外の貸出の増加は、法人化後手数料の増加のため減っていた貸出が、平成18年度の料金改定以降増加し、法人化前の水準に近くなってきたと考えられます。

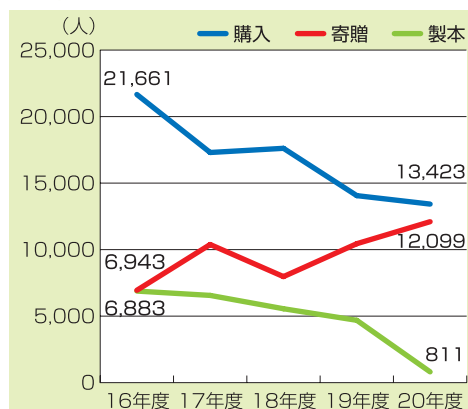
推移と分析

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 一和洋区分一



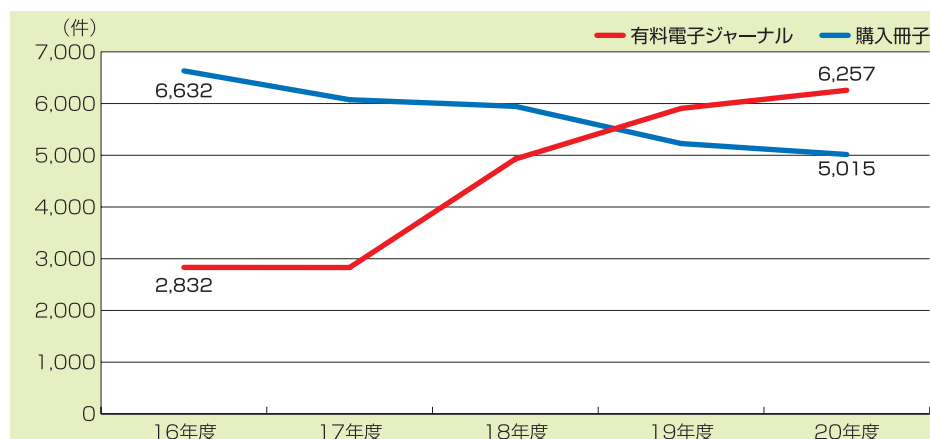
● 図書受入冊数 一受入区分一



図書館資料の購入冊数の減少は、購入予算の減少（前年より800万円減少）による影響がでています。特に洋書の購入冊数の減少は、値段が高価な事や、教員の図書購入数の減少も原因として考えられます。平成21年度は、資料費予算の増加を実現できたため、図書購入冊数の増加が見込まれます。

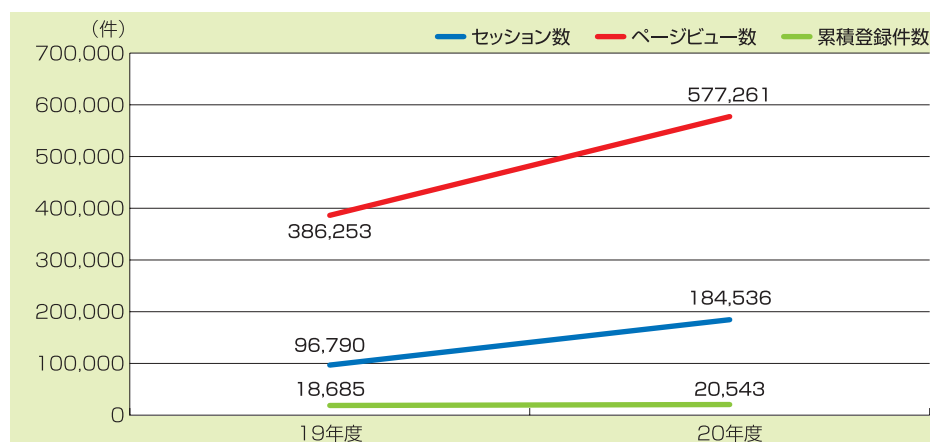
購入冊子と電子ジャーナルタイトル数の推移

（※電子ジャーナル数にはフリーアクセスのものは含まない）



平成18年度以降は、全学的な整備方針決定により電子ジャーナルの飛躍的増加と安定的な供給が実現した一方で、その経費負担増のために、電子ジャーナルと重複する冊子の購入中止へとつながりました。平成21年度は、さらに2つの電子ジャーナルパッケージの追加等により約4,000タイトルの増加となります。

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



平成20年度はプロモーションの効果が現れました。登録件数が約10%の増加ですが、セッション数が91%の増加、ページビューが50%の増加と大幅な増加となりました。特にセッション数が前年の2倍近くなったことは、つくばリポジトリに興味をもってアクセスして頂いたことが分かります。

（企画渉外係 福井 啓介）



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>